

「お客様が欲しいと思う

自然素材の健康住宅を手の届く価格で建てる」

7つのポイント

ポイント1 デザインをシンプルに

子供ころ夢見た「お城のような家」のイメージを捨てることです。

世の中で一番シンプルな容器は、箱型です。また、もっとも住みやすく丈夫な構造も箱型です。

建物もデザインをシンプルな箱型・単純にすることで、外壁の面積を最小限に抑えられます。

ポイント2 細かい部屋を作らず、間仕切りの少ない大空間に

すぐに住みにくくなる家、それは部屋でプランが構成されている家です。

「間取り」を「部屋取り」と勘違いして配置すると、大変住みにくいということになってしまいます。そもそも日本人にはあまり日常でこの部屋は〇〇の為の部屋という感覚が少なく、「茶の間」が居間であり、食堂であり、子供部屋であり、寝室であったわけです。

「食事が終わったから、さぁリビングに移動しくつろごう。」という日本人は、おそらくほとんどいません。2階も憧れの個室を捨てて、大空間を家具や簡易パーテーションで仕切り、時には光や風を家中に通してみるのも気持ちが良いそうです。子供が家族の顔を見ることなく部屋に入るような間取りは具合が良くない、下宿部屋ではあるまいし、住むのはお施主さまとその家族です。

それが、コストダウンにつながるのであれば、一石二鳥です。

採用しない手はありません。

ポイント3 屋根の形を複雑にせず面積や材料を少なくする

構造の必要性から出たものが、結果において美しさを生んでいる状態。それが理想です。

単にきれいか見苦しいか、という基準よりも、シンプルか複雑か、という基準に目を向ければ美しさとコストダウンの一举両得が可能です。つまりどこまでもシンプルな思考が美しさをつくるという考え方を基本にすれば、おのずと無駄な装飾性とコストの両方がそぎ落とされます。

ポイント4 仕上げ材を統一する

当たり前のことですが、異なる部材を少しずつ購入するよりも、同じ材料をまとめて購入する方が各部屋ごとのロスも減り、余ればほかの部屋で残りの材料も使えます。この当たり前のことが、どうして受け入れられないのでしょうか。

ポイント5 構造材や下地材をそのまま意匠とする

私がつくる家の1階の天井は、30ミリの杉板ですが、そのまま2階の床材となります。飾り気がなく、無愛想かも知れませんが、杉板ですから節もありません。

す。構造材の接合に用いる金物も、隠してはおりません。あまり一般的ではないと思われませんが、元々の日本の家屋のあり方です。

貼った時が一番きれいなビニール建材が、はがれたり黄ばむのに対して、法隆寺や清水寺の黒光りした、柱や梁を汚いと思う人は、いないと思います。これら杉や桧の木は、年月を重ねることによって、味わいが深まり、粋な美しさが生まれます。

ポイント6 シンプルな機能の設備機器

特に女性は、設備機器には欲張りです。そこで大事なものは、ライフスタイルに合わせた設備機器を提案することです。

例えばキッチン。使い慣れない不要な設備をオプションで入れたために、収納スペースが減り、結局取り外した…というようなケースもある位です。「憧れ」と「使いこなせるか」は別問題です。優先順位を話し合い、必要に応じて十分なだけの持ち物にするということが、シンプルライフの基本です。おさえた予算はみんなで楽しめるウッドデッキなどにまわしましょう。

ポイント7 流通の見直し 輸送の効率化

お施主さまもある程度妥協をいただきますので、私たち工務店も努力はします。かといってコストを落とすために、素材の材質を落とすわけではなく、大工さんや職人さんの手間をはぶくことなく、クォリティーを落とさずにコスト削減を行います。

今まで当然と考えられていた無駄な広告宣伝の経費や中間マーゲンの徹底削減です。

また、一番簡単で見落としがちな運送費です。私のつくる自然素材の健康住宅は、構造材から室内の内装まで、一環生産なので、わずか10回程度の搬送で、一棟分の材料が運べます。一般的には2倍から3倍以上にも及びますので、大幅なコスト削減になります。

生産・流通・施工の中で、無駄なエネルギーを減らすことは、エコロジーにもつながります。

まとめ

このように、様々な工夫を行うとコスト削減は可能なのです。

そして、価格が高く実現不可能と思われた、自然素材の健康住宅も手の届く価格で提供することができるのです。

私は生まれ育ったこの地元で、工務店を営んでいます。

ですから、地域の人が幸せに暮らす為の住宅を本当に考えました。

私自身ができる事といたら、大工の技術を活かした自然素材の健康住宅をつくる事しかありません。しかし、手の届かない高額な住宅であれば、誰にも建てることはできません。

そのために数多くの人に協力を得て、工夫をこなしました。

そして、自然素材の健康住宅が手の届く価格に出来たのです。

手の届く価格で建てるのが、かしこく建てる事とは、言い切れませんが、必要以上に大事な資産を使う必要はないと思います。

安く建てるというよりは、余裕をもって建てて欲しい。正直な気持ちです。

だって家づくりは、建てたら終わりではなく、これから家族みんなと一緒に住む大切な家だからです。

おわりに

人生の中で、家づくりがすべてではいけないはずで
す。

住む人が末永く幸せでいられるように、ゆとりある
生活が出来る住まいが必要なのです。

そして、安心して暮らせる家を提案して、
建てることこそ、家をつくる者の使命です。

このレポートが、みなさんにとって家を建てるとき
の参考になったら幸いです。

乱文ですが、私が真心こめて書きました。

親子がいつまでも笑って暮らせる家、
あなたも必ず建てられます。

高井弘一郎